

赤松農林水産大臣の米国出張（結果概要）

平成21年10月
農 林 水 産 省

○ 日 時：平成21年10月8日（木）～10日（土）

○ 訪問先：米国・ワシントンDC

○ 会 談：10月8日（木）15：00～16：00 カーク通商代表
10月9日（金）8：25～9：10 ヴィルサック農務長官

1. カーク通商代表との会談（8日）

（1）WTOドーハ・ラウンド交渉

- 先方より、米国は交渉の成功裡の妥結にコミットしている、多国間、2国間で協議を進めることが必要である旨発言。
- 当方より、事務レベル協議において実質的な議論を着実に深化させることの重要性について発言。
- 当方より、
 - ・ 「多様な農業の共存」を基本理念とし、輸出国と輸入国のバランスの取れた貿易ルールの確立が必要との立場を主張。
 - ・ 農業交渉に関して、①重要品目の数と柔軟な取扱い、②上限関税の不適用、③関税割当の新設が、当方の重要事項である旨発言。
 - ・ ルール交渉における漁業補助金の取扱いに関して、過剰漁獲・過剰漁獲能力につながらない補助金については禁止する必要はないとの当方の立場を主張。

(2) A P E C

- 先方より、来年、日本がA P E Cの主催国であり、カーク代表も訪日予定であることにつき言及があり、当方より、A P E C農相会合を開催予定であることにつき言及。

(3) その他

- 先方より、米国産牛肉の輸入問題について、O I E基準に基づき米国産牛肉の輸入条件を見直すべき旨要請。これに対し、当方より、科学的知見に基づき食の安全を確保することが重要である旨回答。今後
も両国が対話を継続することで一致。
- 先方より、ミニマムアクセス米の輸入に関して言及があり、当方より、国際約束を履行するという我が国の基本姿勢に変わりはない旨発言。
- 当方より、カーク代表に是非訪日されるよう要請するとともに、今後、公式、非公式を問わず、電話会談を含め二国間で緊密に意見交換を行うことで一致。

2. ヴィルサック農務長官との会談（9日）

(1) W T Oドーハ・ラウンド交渉

- 当方より、
 - ・ 「多様な農業の共存」を基本理念とし、輸出国と輸入国のバランスの取れた貿易ルールの確立が必要との立場を主張。
 - ・ 農業交渉に関して、①重要品目の数と柔軟な取扱い、②上限関税の不適用、③関税割当の新設が、当方の重要事項である旨発言。
- 先方より、ドーハ・ラウンドは、全ての国にとってバランスのとれ

たものであり、その内容を米国内に説明できるものであることが重要
である旨発言。

(2) その他

- 米国産牛肉の混載事案について、当方より、非常に遺憾である旨発言し、詳細な調査を要請。

- 米国産牛肉の輸入問題について、先方より、O I E基準に基づき米
国産牛肉の輸入条件を見直すべき旨要請。これに対し、当方より、科
学的知見に基づき食の安全を確保することが重要である旨回答。今後
も両国が対話を継続することで一致。

- 来年に我が国にて開催されるA P E C農業大臣会合について、当方
より先方の出席を要請。

- 今後とも、電話会談を含め、両国が緊密に意見交換を行うことで一
致。

(了)